



総合資料館だより

2005.4.1 No.143



▲旧一号書庫写真資料（左下） ▲トップページ（中） ▲撮影鑑 二（右上）

デジタルデータベース 「京都北山アーカイブズ」に7,400点を追加

当館が所蔵する貴重な古写真や行政文書などをデジタル化し、館内端末やインターネット上で閲覧できる「京都北山アーカイブズ」に、このたび新しい資料約7,400点を追加し、3月31日から公開しています。

今回新たに追加した資料は、京都御所での昭和天皇即位式を記録した写真集「昭和大禮寫真帖」を始めとして、明治初期から大正初期にかけての京都府内の様子を伝える「旧一号書庫写真資料」や重要文化財の行政文書「社寺境内外区別原図」など多彩です。

目次	「京都北山アーカイブズ」に7,400点を追加 … 1	「東寺百合文書」第2巻を刊行 …… 3
	平成17年度事業紹介 …… 3	文献課の窓から「江戸時代の京都案内記」… 4
	歴史資料課の窓から「文書出納の記録」… 6	「閲覧室利用実態調査」結果の概要について… 8
	最近の収集資料から …… 9	府民講座のお知らせ、友の会事務局から 他… 10

「京都北山アーカイブズ」について

「京都北山アーカイブズ」は、当館が所蔵する古写真や行政文書などの貴重な資料を一層利活用いただくためデジタルデータ化を行い、館内の端末等を通じて広く公開しているものです。

外部の専門家とともに施策作りを行う「アクションプラン」の一つである「京の文化振興プラン」の主要事業として、平成15年度から実施しています。

従来の公開状況

1年目（15年度）にデジタル撮影し、公開した資料は5,914点で、内訳は以下のとおりです。

- ①「黒川翠山撮影写真資料」（1,477点）
- ②「琵琶湖疏水工事写真帖」（79点）
- ③「大正大禮京都府記事関係写真材料」（435点）
- ④「延喜式内並国史見在神社考証」（136点）
- ⑤「京都府管内地図」（1点）
- ⑥「社寺境内外区別取調」（3,786点）

なお、①、④、⑥については、資料数が多いことなどから、平成15、16年度に分けて撮影を行うこととしており、上記点数は15年度撮影分のみとなっています。

これら資料は、館内端末で閲覧できるようになっており、インターネット上でも、サンプル版として434点を公開しています。

今回の追加公開資料

平成16年度は、前年度からの継続分である上記①、④、⑥の撮影を終了し、公開しました。

また、新規に4つの資料群を追加しており、以下、個別に概略をご紹介します。

「昭和大禮写真帖」（1,181点）

昭和大禮の記録である「昭和大禮京都府記録」編纂のために京都府が撮影・収集した写真を収録したものです。

15年度に撮影した「大正大禮京都府記事関係写真材料」と比較すると、大禮に関わった一般府民の写真も増え、多彩な内容となっています。



▲昭和大禮写真帖（駅前発御前）

「撮影鑑 二」（109点）

明治初期の京都府及び奈良県における名所の写真集です。

神社仏閣等、名所旧跡の当時の様子が分かる

だけでなく、五条板橋、嵐山の鉱泉浴場等、歴史的、風俗的な観点から貴重な写真も含まれています。

15年度に撮影した「琵琶湖疏水工事写真帖」と同じく、元京都市長である高山義三氏の旧蔵資料です。



▲撮影鑑 二（八坂法観寺）

「旧一号書庫写真資料」（786点）

京都府が明治初期から大正初期にかけて撮影・収集し、京都府庁舎一号書庫に保管されていた写真資料です。

明治5年に京都府が三条東洞院に設置した図書館である

「集書院」や「日銀京都支店」、「南座」等、多彩な写真があり、当時の様子が偲ばれます。



▲旧一号書庫写真資料（京都市南座）

「社寺境内外区別原図」（449点）

15年度から撮影している「社寺境内外区別取調（絵図）」のもとになった図面です。

多くは墨で描かれた無彩色の図面ですが、彩色され、朱で境内外の線引きがされているものもあります。

なお、当資料は「社寺境内外区別取調」と併せ、学術調査研究を目的とする方のみでの利用としています。文書閲覧室で閲覧申請の上、ご利用ください。



▲社寺境内外区別原図（賀茂社境内図）

インターネット公開

インターネット上で公開しているサンプル版についても434点を追加し、全体で868点となりました。

総合資料館ホームページのトップページからアクセスできますので、貴重書データベースやネット展覧会の「馬の人形展」と併せ、是非、ご利用ください。

URL <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

「東寺百合文書」第2巻を刊行

当館では、所蔵している国宝「東寺百合文書」の翻刻事業を行っています。この度、その第2巻を刊行しましたので、その概要をご紹介します。

この巻には「口函」7号から60号までの54点を取っていますが、前巻に比べ、東京大学史料編纂所の影写本にも収録されていない、いわゆる新資料の比率が高くなっています。中でも分量の大きいものが、仏事方の算用状という、1点の長さが20mを超える長尺の計算書類です。

東寺の宗教活動の中に、従来 of 国家的法要を営むという使命のほか、個人の忌日に追善供養を行うという役割が加わります。個人とは、一つには天皇・上皇・女院などの公家、室町将軍、これにつながる僧侶など、法会の創設と修僧の配置、荘園の寄進や制度の整備を通じて、東寺の興隆に大きな力のあった人たちです。一方、大師信仰の浸透に伴い、小規模の土地を寄進して、

自身や関係者の菩提を弔ってほしいと願う人たちが、庶民の中に多く現れます。これらの人たちのために行う供養を仏事といい、寄進された荘園・所領からの収入を元に営まれました。収支の計算は特別会計として仏事方と呼ばれましたが、その1年分の決算書が仏事方算用状です。仏事ごとに、未進分や諸経費、計算上の目減り分を差し引いた収入額と、各役職1人当たりの分配額を計算しています。

仏事方の文書としては、そのほかに、未進額を書き上げた未進徴符や、法事の布施物を寺内に配分した捧物支配状などがあります。

第2巻の概要

書名	「東寺百合文書」第2巻
内容	口函の一部 54点
規格	A5判
頁数	430頁
定価	9,500円(税込 9,975円)
発行者	榊思文閣出版
発行日	平成17年2月25日

平成17年度の事業予定について

平成15年度から「京の文化振興プラン」に基づき実施している、所蔵資料のより一層の保存・活用に向けた講座・展覧会を引き続き開催いたしますので、ご期待願います。

今年度の開催予定は次のとおりです。

◆講座

「総合資料館府民講座」は、歴史や伝統文化、館蔵資料紹介等のテーマで、年間8回程度開催する予定です。(5月の開催予定は10頁をご覧ください。)

「古文書解読講座」についても、実施時期は変わりますが、16年度と同様、「初心者コース」と「一般コース」を2回ずつ開催する予定です。

なお、古文書の内容や解読についてのご相談

をお受けする「古文書相談」についても、引き続き毎月開催しますので、事前にお申し込みください。

◆展覧会

秋に恒例の「東寺百合文書展」、2～3月にかけては企画展「京都の藩」(仮称)を予定しています。また、夏には、普段目にしていただく機会の少ない収蔵品をご覧いただく「収蔵品展」を開催する予定です。

これら各事業については、詳細が決定次第、「総合資料館だより」、「府民だより」等のほか、当館のホームページでも順次ご案内しますので、奮ってご参加願います。

平成17年度 総合資料館の年間事業予定

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講座	総合資料館府民講座	年間8回程度開催											
	古文書解読講座	初心者コース、一般コース(各2回)											
展覧会		収蔵品展				東寺百合文書展				企画展			

注：現時点での予定であり、変更することがあります。

江戸時代の京都案内記

今回の「文献課の窓から」では、江戸時代の主な京都案内記の一覧を掲載します。これは3月20日まで開催した企画展「京の商いー『京』ブランドの今むかしー」で、「京」ブランドと京都案内記の出版がかかわっていることに注目し、作成・紹介したものです。

現在、世界的にも有数の観光都市として知られている京都の町は、日本において庶民による旅が一般的になり始めた江戸時代から、既にその魅力を全国の旅人にアピールしていました。多くの名所案内記、地誌、買物案内等が出版され、それらの京都案内記が京ブランドとなる数々の名産品の名を知らしめるとともに、京の

町自体の観光地としてのブランド名をもさらに高めていきます。

当時、庶民には物見遊山のためのみの旅は認められていませんでしたが、数多くの社寺を擁していた京都への旅は、参詣のための旅として旅人にその名目を与えました。

一覧にある資料は、すべて文献課で所蔵している資料です。名所の由来を詳しく記した資料もあり、300年以上昔の本から新しい知識を得ることが出来るのも、悠久の歴史と伝統のある京の町ならではの、と言えるでしょう。

図書閲覧室のカウンターで請求の上、ご利用ください。

江戸時代に出版された京都に関する主な地誌・名所案内・買物案内等（年代順）

タイトル	著者等	成立年	内 容 紹 介	所蔵
京童	中川喜雲 編	明暦4 (1658)	京都案内記の先駆け 京童が京都の名所を案内するという設定	●○
洛陽名所集	山本泰順 著	万治1 (1658)	約300の名所の由緒・縁起を紹介 (別書名:都物語)	○
京雀	浅井了意 著	寛文5 (1665)	『京童』に比べ実用的で、地域ごとに主な商売、寺社、名所などを案内	●○
扶桑京華志	松野元敬 著	寛文5 (1665)	漢文体で書かれた山城国全体の地誌 社寺、自然、遺跡などを解説	○
京童跡追	中川喜雲 [著]	寛文7 (1667)	『京童』の作者による補遺 京以外に大和、摂津なども記す (別書名:跡追)	○
山城四季物語	坂内直頼 著	延宝1 (1673)	山城国の年中行事を四季毎に紹介したもの	○
日次紀事	黒川道祐 著	延宝4 (1676)	主に京における公俗の年中行事を解説 (別書名:日次記事)	○
出来齋京土産	浅井了意 [著]	延宝5 (1677)	主人公出来齋が京の寺社、名所を巡り各地で狂歌を詠む (別書名:山城名所記など)	○
京雀跡追		延宝6 (1678)	『京雀』以後の町の発展をうけて、同書を増補したもの	○
京師巡覧集	丈愚 編	延宝7 (1679)	漢文体による山城国の地誌 名所旧跡を詩を交えて案内 (別書名:京都巡覧)	○
菟泥赴	北村季吟 著	貞享1 (1684)	山城国全体の名所を解説 「つぎねふ」は「やましる」の枕詞 (別書名:次嶺経)	○
京羽二重	水雲堂孤松子 著	貞享2 (1685)	縦糸と横糸を緻密に織る羽二重のように京の歴史、町筋、名所、人物等を仔細に案内	●○
雍州府志	黒川道祐 著	貞享3 (1686)	漢文体で書かれた山城国の地誌 地理、歴史、名所、くらしなど総合的に記述	●○
近畿歴史記	黒川道祐 著	[貞享期頃か]	著者が『雍州府志』の調査のために各地を訪れた際の紀行文	○
京羽二重織留	水雲堂孤松子 著	元禄2 (1689)	『京羽二重』に収録しなかった事項を追加した増補版 (別書名:織留)	○
名所都鳥		元禄3 (1690)	山城国の名所を山、川、野、古城など41部に分けて紹介 各所にちなむ和歌も付す	○
京独案内手引集		元禄7 (1694)	『京雀跡追』の増補となる買物案内書 商職人の住所も書かれている	○
堀川之水	富尾似船 著	元禄7 (1694)	著者の自宅、醒ヶ井通七条南鎌屋町付近の名所を案内 俳諧書の趣もある	●○
花洛名所記		元禄7 (1694)	通ごとに町の名を記す 各町の商職人の様子を描いた挿し絵入り	●
洛陽洛外手引案内	愚定 [著]	元禄7 (1694)	寺社の由来、各通にある町名を記す 巻頭に宿一覽や公家、武家の所在も付す	●
花洛細見図	金屋平右衛門 編	元禄17 (1704)	京の名所、風俗を図説『都名所図会』(1780)のモデルとなった (別書名:宝永花洛細見図)	●○
京城勝覧	貝原益軒 著 下河辺拾水 画	宝永3 (1706)	京の名所を17日間で巡る順路を提示する案内記 (別書名:京都めぐり)	●○
京内まいり	守拙齋 著	宝永5 (1708)	京の神社仏閣を3日間で見て回れるようにまとめられた案内記	○
山城名勝志	大島武好 編	正徳1 (1711)	およそ2700項目にわたり山城国の名所を過去の資料から引用して紹介	●○
山州名跡志	白慧 編	正徳1 (1711)	著者が山城国を訪れて調査し、当時の状況を詳しく記した地誌	●○
都名所車		正徳4 (1714)	洛中洛外の社寺、名所の紹介を記し、旅行者が回りやすいように配列したもの	●○
都すゞめ案内者		正徳5 (1715)	公家、武家、社寺、呉服商、医者などの所在を記し、下巻は各町の案内となっている	●○
伏見大概記		享保13 (1728)	数少ない伏見地区の地誌の先駆けとなるもの	○
山城志	関祖衡 編	享保19 (1734)	山城国内の町村、名所旧跡、社寺、氏族について漢文で記した地誌	●
内裏雛		[享保年間]	名所の解説と社寺の縁起を紹介している (別書名:京の花など)	●

タイトル	著者等	成立年	内 容 紹 介	所蔵
京羽二重大全		延享2(1745)	先に刊行された『京羽二重』、『京羽二重織留』の改訂増補版	●
新益京羽二重織留大全		宝暦4(1754)	『京羽二重』、『京羽二重織留』、『京羽二重大全』の改訂増補版	●○
山城名跡巡行志	浄慧 著	宝暦4(1754)	内裏から神社、仏閣、名所を巡りやすいように並べた案内記	○
祇園会細記		宝暦7(1757)	祇園祭を図説 山鉦を詳細に描写している(別書名:山鉦由来記 祇園御霊会細記)	●
京町鑑	白露 著	宝暦12(1762)	京の町並みを解説し案内する種々の町鑑の中でも代表的な書	●○
神社仏閣京都一覽	愚定〔編〕	宝暦13(1763)	寺社の由来、場所、領地を記す 三条大橋付近の宿も紹介(別書名:都名所手引案内)	●
水の富貴寄	橋井栄助 著	安永7(1778)	京名物の評判を記す 名物之部、大業之部、細工之部、料理之部など分類して紹介	○
都名所図会	秋里籬島 著 竹原信繁 画	安永9(1780)	京の名所案内記の代表作 大変好評で、籬島により多くの続編が刊行された	●○
伏見鑑		安永9(1780)	『京羽二重』を倣って書かれた伏見の地誌 この地域の地誌は少ない	●○
見た京物語	二鐘亭半山 著 菱川春童 画	天明1(1781)	幕臣であった二鐘亭半山が京に滞在していた際の見聞記	○
絵本此手拍		天明6(1786)	東山、北山など各地域の鳥瞰図や京の代表的な祭礼の様子を絵で紹介	●
拾遺都名所図会	秋里籬島 著 竹原信繁 画	天明7(1787)	好評であった前作『都名所図会』の秋里籬島による補遺版	●○
京の水	秋里籬島 編 下河辺拾水 画	寛政2(1790)	京の町の起こり、宮殿、社寺、和歌に登場する名所などを解説	●○
都花月名所	秋里籬島 著	寛政5(1793)	花・月・雪・紅葉などの名所から京を紹介するユニークな案内記	●○
都林泉名勝図会	秋里籬島 著 佐久間草偃・西村 中和・奥文鳴 画	寛政11(1799)	主に社寺の庭園(林泉)を解説するが、庭園以外の名所も紹介されている	●○
東山西山洛陽京名所 あんない記		[寛政期頃か]	4丁(8ページ)の簡潔な案内記 焼失前の方広寺の大仏を紹介している	●
東山西山京名所案内記		[寛政年間]	『東山西山洛陽京名所あんない記』の改訂版か 表紙に寛政新板とある	●
騎旅漫録	滝沢馬琴 著	享和2(1802)	江戸の馬琴が上方を巡った際の見聞記 江戸人の見た京の様子が描かれる	○
神社仏閣都伊呂波分 早引	菅原輝恵 著 柴松亭主人 編	文化8(1811)	京の寺社霊場の位置、縁起を記し、いろは順に並べたもの	●
東山西山京名所独案内		[文化年間]	4丁の簡潔な案内記 表紙は当時珍しさから観光の目玉であった公家の様子	●
扁額規範	速水春曉斎 編、合川 珉和・北川春成 画	文政2(1819)頃	神社の絵馬に描かれた図を紹介したもの	○
洛陽十二社靈驗記	松浦星洲 著	文政10(1827)頃	12の社寺に祭られる神仏の縁起、功德を解説	●○
京案内道しるべ	池田東籬 編	文政12(1829)	6日間で京の名所を巡ることができるよう行程を記した案内記	●
増補都名所車	池田東籬 補著	文政13(1830)	1714年に刊行された『都名所車』をより使いやすいものとして編集しなおしたもの	●
商人買物独案内		天保2(1831)	品物をいろは順に並べ、目的の店を引けるように記した買物案内(別書名:京都買物独案内)	●○
京都順覧記	池田東籬 編	天保2(1831)	内裏図、屋敷、名所、旧跡の案内を記した地誌	●
京町小名鑑		天保9(1838)	通ごとに町の名を記す 携帯に便利な小型本	●
袖中都名所記	池田東籬 編 井上春曙斎 画	天保10(1839)	袖に収まる小型の案内記 三条大橋から各名所までの距離が記されている	●
京名所独案内	池田東籬 編	天保12(1841)	社寺、名所、旧跡などを並べ、次の場所までの道のりを記したコンパクトな案内記	●
洛西嵯峨名所案内記	林峨山 著	嘉永5(1852)	嵯峨野一帯の名所を紹介し、和歌を付した名所案内記(別書名:嵯峨名所案内記)	○
花洛名勝図会	木村明啓・川喜多 真彦 編	文久2(1862)	『都名所図会』風の案内記で風俗も詳細に描写 東山之部のみ刊行(別書名:東山名勝図会)	●
花洛羽津根	清水換書堂 著	文久3(1863)	洛中洛外の寺社、自然などの名所を図を交えて案内(別書名:京羽津根、都羽津根)	●○
都商職街風聞		文久4(1864)	いろは順で京の商職を記す買物案内 314業種、1155軒を紹介	●○
増補華洛細見図絵	池田東籬 編	文久4(1864)	京の祭礼、社寺を図説した案内記 折本の形態で全てのページに図がつけられている	●

<凡 例>

- ・配列は成立年順による。
- ・成立年は『国書総目録』(岩波書店)、『日本歴史地名大系27 京都市の地名』(平凡社)、『京都大事典』(淡交社)によった。所蔵している資料のうち、上記の参考図書により成立年(初めて成立した年)が確定できなかったものについては、刊行年(増刷版、改訂版等、その資料の実物が刊行された年)を記しているものもある。
- ・著者等の欄が空白のものは、著者等が不明の資料である。
- ・所蔵の欄の印は当館での所蔵状況を示し、●が版本(木版等によって印刷された原本)を所蔵している資料、○が翻刻(後に原本の文字を活字に直して出版したもの)あるいは影印版(原本を写真撮影し、出版したもの)を所蔵している資料を示す。
- ・当館で所蔵する版本が初版本でない場合もある。
- ・表中の〔 〕内の記述は、資料現物以外の情報源から推定して記入したことを示している。

文書出納の記録 —「西院文庫文書出納帳」—

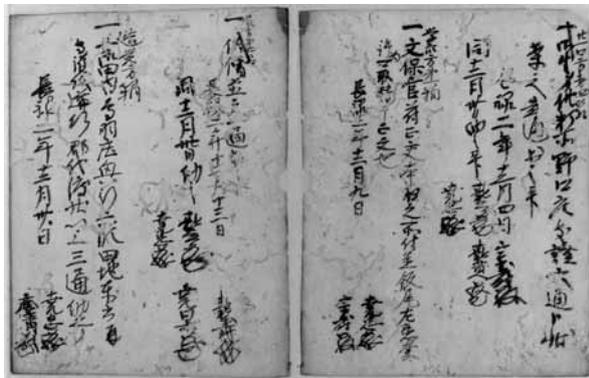


▲写真1 西院文庫文書出納帳

写真1の文書は「西院文庫文書出納帳」とい
い、文書の出し入れを記録したものです。

東寺西院御影堂には、大師尊像を安置した
内々陣の西隣に三聖人控えの間があり、宋版大
般若経その他の聖典を収納して経蔵と呼ばまし
た。また重要な文書の保存管理に使用し、西院
文庫とも称しました。

東寺では文書の管理は寺僧が行い、出し入れ
をチェックしました。当初、帯出した文書のリス
トを作り、文書と交換に入れ置いていました
が、このリストを紛失することがあり、専用の
冊子を設置して、出納を記録するようになりま
した。



▲写真2 西院文庫文書出納帳

出納帳は、不完全な状態ですが数冊残されて
おり、応永16(1409)年から大永2(1522)年まで

の出納状況が分かります。写真2で掲出したも
のは、そのうち長禄2(1458)年の部分です。出
納の様様を見てみます。

12月4日、丹波国野口庄の支証6通と申状案
文2通を帯出した、として宝輪院宗寿と金勝院
融覚が署判を加えています。記載の肩に「廿一
口方第四箱」とあるのは、これらの文書がその
箱から出納されたことを示しています。返納は
同月30日に行われ、融覚と光明院堯忠が署判し
ています。

文庫内の文書は、廿一口方や学衆方といった
寺内組織ごと、(丹波国)大山庄や(若狭国)太
良庄といった寺領荘園ごと、あるいは正文、請
文といった種類ごとに分類され、それぞれの箱
が作られて整理・保存されていたのです。廿一
口方は寺僧組織の中核的存在ですから、管理す
べき文書も多く、第一箱から第四箱の4箱が使用
されていました。

12月9日には、学衆方第一箱から「文保官符」
の正交(校)本を堯忠と宗寿が帯出し、飯尾左
衛門大夫の下に置いてある正文と交換するため
である、と記入しています。「文保官符」とは、
文保元(1317)年10月付後宇多上皇院序下文で、
東寺興隆の立願と、その料所を保証した内容の
文書であり、学衆方の根本公驗(くげん)(所領そのほか
の権利の移動を公的に証明する、院宣や幕府の
公文書)です。こうした最重要書類について、
東寺では校本(本来は校合に用いられる本のこ
と。ここでは文言はもとより、行ごとの字配り
や字体までできるだけ正文に近づけた精巧な写
し)を用意しており、正文の代用に備えていま
す。飯尾左衛門大夫とは、室町幕府奉行人飯尾
之種のことです。この場合何らかの必要により幕
府に提出していた正文を取り戻し、代わりに文
庫内の校本を取り出して、差し替えようとした
のです。

12月13日には、宮内卿融寿と金蓮院堯果が供
僧置文1通を廿一口方第一箱から取り出し、30
日に融覚と堯忠が返納しています。この文書の
帯出については、この年の「廿一口方評定引付」



▲写真3 廿一口方評定引付

(写真3)により、およその事情が分かります。その記事によれば、

11月末、三位僧都宏清が一旦引退した寺家供僧職について、もとどおり補任してほしいとの申し出があった。その後当人からは、出仕だけでも認めてほしいとの願い出や、子院を相続したのだから先例からしても補任してもらえるはずなどの催促があったが、廿一口方としては、今は人数もそろわず意志決定が出来ない、人数が調った上で評議する、と回答を保留していた。

12月10日に至り、宏清から事情を説明した書状(写真4)が出された。それによると、「私の云う供僧職は、文安元(1444)年に永清阿闍梨から譲られたものである。以来数年間間違いなく保持してきたが、2年前(康正2年)の春、三宝院門跡(宝池院義賢)から師の命と称して、理由もなく寺家を引退させられた。しかし、このたび公方(將軍足利義政)から安堵されたので、職への還補を願い出たのである。」とのことであつた。

これを披露したところ、供僧補任に関する^{おき}置



▲写真4 宝厳院宏清書状(東寺観智院金剛藏聖教)【東寺所蔵】

文があつたはずなので、文庫からそれを出し、衆中で回覧することになった。その結果、永享10(1438)年に定め置かれた法式に合致しているので、補任を認めることになった、というものです。

2年前の康正2(1456)年、宏清は師の宝厳院聖清とトラブルがあつて義絶を受け、供僧職を取り上げられていました。翌年、聖清が死没し、將軍の後援もあつて職を回復しようとしたのですが、衆中にとっての判断材料は、過去に「定め置かれた法式」であり、それを記録した「置文」であつて、それは文庫に保存されていたのです。

出納帳の記載に戻つて、12月30日には女御田内鳥羽庄興行六段田地に関する奉書・守護代遣行状・郡代渡状を、堯忠と正覚院慶清が造営方箱に納めています。これは返納ではなく、それまでに入手していた文書を新たに文庫に収納したものです。

以上のように、西院文庫に保存された文書は、必要に応じて出納されています。その用途は、寺領に関わる訴訟や、代替わりの安堵を受ける際、幕府や朝廷に証拠書類として提出すること、寺内の組織運営や重要事項の決定にあつて、先例として参照すること、などです。また、それに備えての校本作成や、保存に必要な修理を行うためであつたりします。所領の寄進や買得により、あるいは勝訴や安堵により、新たな文書を得た場合には、これを追加保存します。

また、文書の出納にあつては、供僧2人が1組となつて行い(実行は三聖人に命じる)、事故を防ぐとともに、出納帳に署判を据えて責任を明確にしています。そのほか、組織ごとの重要書類を選び出して書写し、「^{じゅうしよあん}重書案」を編集したり、文書の目録を作成して散失を防いだりしています。

こうした保存や管理の体制は、寺院という組織を維持するための必要から、東寺において時代とともに工夫・強化されてきたものです。

「閲覧室利用実態調査」結果の概要について

当館では、昨年5月22日(土)、25日(火)と11月11日(木)、13日(土)の4日間、利用者の皆様のご協力を得て、「閲覧室利用実態調査」を実施しましたので、その主な結果をご紹介します。

4日間合計の調査票回収枚数は683枚で、回収率は90%でした。なお、集計にあたっては、「無回答」を除いた有効回答数を分母としています。

◆利用者層

性別では、男性67%、女性33%とおおよそ2対1の割合で、平日は男性が72%とより多くなっています。

年齢は10代が最も多く、次いで20代、50代の順で、各年齢層の方に幅広くご利用いただいています。また、平日は50代以上が42%、逆に土曜日は20代以下が52%を占めました。

職業別に見ると、学生(大学生、高校生等)が最も多く、有職者、無職と続きます。なお、平日は無職が33%、土曜は学生が44%と、利用が多くなる傾向が見られました。

住所は京都市内が88%と圧倒的に多く、京都市を除く京都府内は5%、他府県は7%となっています。

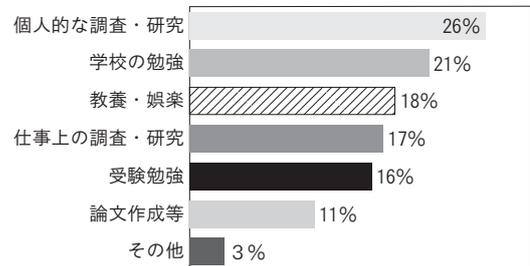
来館方法は、バイク・自転車が46%で、以下、公共交通機関24%、自家用車19%、徒歩9%などとなっています。

◆利用状況

利用目的(複数回答)は、個人的な調査・研究、学校の勉強、教養・娯楽、仕事上の調査・研究などが多くなっています。

利用頻度は、「週1～3回」28%と「週4回以上」7%を合わせると35%となり、3人に1人はいわゆる常連の利用者となっています。以下、

利用目的(複数回答)

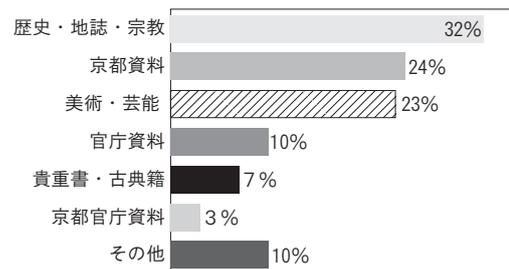


「月1～3回」31%、「年に数回」22%、「今日が初めて」12%となっています。

利用時間は「2～4時間」32%、「4時間以上」と「1～2時間」各28%、「1時間以内」19%となっています。

図書閲覧室で利用した資料分野(複数回答)は、「歴史・地誌・宗教」が最も多く、「京都資料」、「美術・芸能」と続きます。

利用した資料の分野(複数回答)



来館目的の達成度は、「ほぼ達した」61%、「達した」24%で、両者を合わせると85%が一応達成した、という結果になりました。

◆今後の希望等

充実を希望する資料分野(複数回答)は、「歴史・地誌・宗教」35%、「京都資料」28%、「美術・芸能」27%、「貴重書・古典籍」12%、「官庁資料」10%など、よく利用されている分野への希望が多くなっています。

今後期待するサービス(複数回答)としては、「蔵書の充実」51%、「館内設備の充実」24%、「各種講座の充実」10%などとなっています。

今回の調査結果を踏まえ、今後、利用者の皆さんのニーズにあった館のあり方について検討するとともに、充実に向けて努力していきたいと考えています。

最近の収集資料から(平成16年12月～17年2月)

◆図書資料

〈京都〉

延暦寺と中世社会 河音能平・福田栄次郎編
法蔵館 2004 499p

都市平安京 西山良平著 京都大学学術出版会
2004 370p

京都・高瀬川 石田孝喜著刊 2004 120, 12p
寄贈

伏見の自然と環境 聖母女学院短期大学伏見学
研究会編 清文堂出版 2004 228p (京・伏見
学叢書) 寄贈

府身連50年史 京都府身体障害者団体連合会設
立50周年記念誌 '54～'04年 京都府身体障
害者団体連合会「50周年記念誌編集委員会」編刊
2004 392p 寄贈

日本髪の世界 舞妓の髪型編 石原哲男編著
日本髪資料館 2004 167p

洛北・岩倉のチョウ 佐藤英次著 岩倉の歴史
と文化を学ぶ会 2004 101p 寄贈

十二世伊東久重作品集 有職御人形司 伊東久
重著刊 2004 1冊 寄贈

京都の狂言師 茂山千作著 世界文化社 2004
157p

〈人文〉

電子図書館と電子ジャーナル 学術コミュニ
ケーションはどう変わるか 根岸正光他著 丸
善 2004 157p (情報学シリーズ 8)

「満州国」資料集積機関概観 岡村敬二著 不二
出版 2004 256p 寄贈

東大寺の歴史と教学 論集 GBS実行委員会
編 東大寺 2003 210p (ザ・グレイトブッ
タシンポジウム論集 大号) 寄贈

中世の聖教と紙背 写経は神仏をかけめぐる。
真言密教を中心とした聖教世界の研究プロジェ
クト編 立命館大学21世紀COEプログラム京
都アート・エンタテインメント創成研究 2004
70p 寄贈

全国木簡出土遺跡・報告書総覧 山本崇・寺崎
保広編 木簡学会 2004 278p 寄贈

中世花押の謎を解く 足利將軍家とその花押
上島有著 山川出版社 2004 365, 11p

戦国時代の宮廷生活 奥野高広著 続群書類従
完成会 2004 387p

近世都市住民の研究 乾宏巳著 清文堂出版
2003 415p

狩谷掖斎年譜 上 梅谷文夫著 青裳堂書店
2004 329p (日本書誌学大系 92-1) 寄贈

日本における外来美術の受容に関する調査・研
究 東京文化財研究所美術部編刊 2003 70p
寄贈

日本芸術院所蔵作品目録 日本芸術院編刊
2003 338p 寄贈

コピエの時代 デュシャンからウォーホル、モ
リムラへ 開館20周年記念展 滋賀県立近代美
術館編刊 2004 225p 寄贈

雪村研究 赤沢英二著 中央公論美術出版
2003 292p

印象派の歴史 ジョン・リウオールド著 角川学
芸出版 2004 549p

円 Circular vision 奈良原一高著 ニコ
ン・ニコールクラブ 2004 111p (ニコンサ
ロンブックス) 寄贈

光琳・乾山関係文書集成 上・下巻 住友慎一
編 芙蓉書房出版 1996 2冊

〈官庁〉

企業経営の分析 平成15年度 三菱総合研究所
2004 46, 383p

21世紀出生児縦断調査 第2回(平成14年度)
厚生労働省大臣官房統計情報部編 厚生統計協
会 2004 534p

市政総合アンケート報告書 平成16年度第3回
京都市総合企画局市長公室広報課編刊 2004
52p 寄贈

とうけいでみるきょうと 平成16年版 京都市
総合企画局情報化推進室情報統計課編刊
2004 62p 寄贈

わたしの中のワタシへ 向日市ドメスティッ
ク・バイオレンスはんどぶっく 向日市政策企
画室政策協働課編刊 2004 10p 寄贈

宇治市の環境 平成15年度報告 平成16年版
宇治市市民環境部環境政策室編刊 2004 148p
寄贈

烏丸地区交通バリアフリー移動円滑化基本構想
すべての地域住民と来訪者に優しいまち・烏丸
京都市都市計画局都市企画部交通政策課編刊
2004 44p 寄贈

◆文書資料(新しく公開する資料)

建地割図 建築立面図。3点。

年貢免状写 禁裏領宇治郡川田村(享和3年)、
東野村(安政5年)の年貢免状。2点。

袋町文書 幕末から明治初年の大仏耳塚通五条
下ル袋町(現在東山区大黒町通五条下ル1丁目)
の町文書。8点。

大久保家文書・乙 京都市伏見区の庄屋大久保
家の家訓。1点。

(次頁に続く)

井山家文書 榎村正直の著書、近代の諸届書類の雛形等。11点。

士族授産会社株券 日本における初期の頃(明治10年)の株券。1点。

富田村文書・乙 富田村(現在船井郡丹波町)の文書。新川地面改帳ほか。3点。

大乗院文書・乙 奈良春日社の修復に関わる資料。万延元年～文久3年。1点。

松下町文書 京都市中京区松下町の明治元年～3年の触書の留。1点。

各商業人調 明治14年の京都府内全郡別の商業人に関する統計書。1点。

地券関係書類 地券発給に関わる土地関連資料。

明治5～9年。4点。

上京下一条組古町中文書 文化15年の町代改義の一件に関わる資料。御答書之写。1点。

二条二之丸御番所御道具申送帳 二条城二之丸入口にあった番所が管理していた鉄砲などの諸道具の数量・保管場所についての文化8(1811)年の記録。1点。

堀川流民生所録 京都府が設置した5箇所の流民集所の内、堀川に収容した人の明治3年の記録。流民集所とは明治維新の混乱期、都市の困窮者救済のために設置した施設。1点。寄贈。

信義団真実会諸控 信義団の委員選出・活動状況等の記録。信義団とは西本願寺旧臣が復禄請願を主な目的として明治28年に組織したもの。1点。寄贈。

総合資料館府民講座のお知らせ

- ◆5月20日(金) 午後2時～
上田純一氏(京都府立大学文学部教授)
演題「足利義満と禅宗
—日中交流史の観点から—」
受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。
*満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館 庶務課
TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466
メール shiryokan-shomu@mail.pref.kyoto.jp

友の会事務局から

平成17年度の友の会は、2月末現在で303人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、資料館だよりや古文書解読講座の案内をお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方の入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局
(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

収蔵展示室の一般公開

当館3階の収蔵展示室において、歴史・民俗資料等の一般公開を行います。

5月18日(水)～5月20日(金)
午前9時30分～午後4時30分 入場無料
問い合わせ：京都府京都文化博物館学芸第一課
TEL 075-213-2893

- 日誌(平成16年12月～17年2月)
11.30(火)～12.3(金) 第3回古文書解読講座(一般A)
12.10(金) 府民講座(第22回)開催
12.14(火)～17(金) 第3回古文書解読講座(一般B)
12.22(水) 第170回古文書相談
2.16(水)～3.20(日) 企画展「京の商い」開催

利用案内

休館日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期、年末年始(12月28日～1月4日)

【4月～6月の休館日】

4月13日(水)、4月29日(祝)、5月3日(祝)～5月5日(祝)、5月11日(水)、6月8日(水)

*今年春の臨時休館は行わず、9月下旬から10月中旬にかけて2週間程度臨時休館する予定です。

開館時間 午前9時～午後4時30分
交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス②⑧ ④⑤ ④⑥ 前萩町下車
ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。